ろくおん通信 No. 150
発行日　2007年７月１５日
発行：　盲人情報文化センター録音製作係
〒542-0071　大阪市中央区道頓堀1丁目東3番23号
道頓堀千島ビル
電話０６－６２１１－０９１０(録音製作)

「音声訳マニュアル」を制作するにあたって

録音製作係　清水　賢造

盲人情報文化センター(以下「情文」と略)はこれまで音声訳講習会で活用する「音声訳のマニュアル」というものを制作してきませんでした。各地で行われている音声訳講習会では全視情協が発行している「音訳マニュアル」(以下「マニュアル」と略)を活用しているところが多いようです。しかし、「情文」では、この「マニュアル」は使用してきませんでした。その理由は、全視情協の「マニュアル」にそって作られた録音図書は不自然でわかりにくい図書になるからです。

「音声表現技術」は「マニュアル」では「墨字表現に対応した音声による区別の体系」とされ、墨字の表記に対応して読み方を変え、区別して読むようにしています。（校正でもカギ括弧のところの音程が上がっていない、カッコ内が下がっていない、・・・、などと指摘されるようです。）

しかし、利用者は表記が問題になっているところは別にして「原本がどのような表記か」を知ろうとして読書するのではありません。あくまでも「書かれている内容」を知りたいわけです。カギ括弧やカッコの多い本を原本の表記にあわせて、上がったり、下がったりしたしながら読まれた録音図書が、きわめて不自然で内容がわかりにくくなるのは当然です。（下げるつもりが声が小さくなる人も多く、聞こえなくなるケースも多々あります）

「情文」では「音声表現技術」という時は、「さまざまな表現で書かれている墨字情報を正しく音声で伝えるための技術」＝「読み方の技術」と考えています。つまり「墨字の表記に無理矢理にあわせたた読み方」としての「音声表現技術」は必要ないという考え方です。もちろん、「著作権を尊重しながら、聞きやすくて、よく分かる読み方をする為の技術」としての「読みの技術」（混乱するので、盲人情報文化センターでは「音声表現技術」ということばは使わないようにします。）を修得していくことの大切さはいうまでもありません。（腹式呼吸のマスター、明瞭な発声、アクセント、意味の固まりで読む、ブツブツ切って読まない、間、etc）

音声訳者は「読みの技術」だけでなく、他にも「さまざまな技術」を修得しなくてはなりません。きれいに録音する為の「録音技術」、正確に読むための「調査技術」、見えない為に伝わらないところを内容を正しく伝える為の「音声変換処理技術」、正しく読まれているかをチェックする「校正技術」などです。

現在、「情文」の講習会で活用する「音声訳マニュアル」の作成に取りかかっています。この「音声訳マニュアル」ができましたら、それぞれの勉強会でも活用していただきたいと思っています。

自宅録音チーム定例勉強会
7日(火)　『マトリョーシカ』　10時～12時
18日(水)　『はなみずき』　1時半～3時半
23日(木)　『二十四の瞳』　10時～12時

『橋本勝利のフォローアップ講座』
8日(水)　1時～3時
10日(金)　1時～3時

夏季休館のおしらせ
13日(月)～16日(木)
盲人情報文化センター一斉休館

聴いてわかる図書を作るために　（第１６回）

カッコの読み方　音声訳の基本を考える

久保　洋子

音声訳とは活字情報を音声情報に変換して視覚障害者に提供することです。

活字情報が活字の約束事（句点、読点、段落、見出し、etc）に従って作られているのに対し、音声情報はこれとは全く別の約束事に従って伝達されます。この約束は私たちの日常会話で、使われている約束事と同じで録音図書のために特別につくられたものではありません。

従来、カッコ内を読むときにはピッチを下げて（音程を下げて）読むということが行われてきました。この方法は音程の上げ下げがきちんと出来れば、そこが原文のカッコ内であることを伝えるには便利な方法かもしれません。但し、この約束事は私たちの日常会話でだれもが理解している約束事ではありませんので、利用者に正しく伝わるとは限りません。

私たちが伝えなければならないのはそこにカッコがあることではなく、カッコを使って書かれた原文の内容ですから、この方法は大抵の場合、無意味だと思われます。

カッコが様々な使われ方で出て来る原文を、ではどのように読めばいいのでしょうか。

①カッコ・・・トジ（カッコトジ）をつけて読む
②カッコ内を普通に読む
③カッコ内を読んだ後、前の語句に戻る

など内容に応じて様々な読み方が考えられます。どの方法を選ぶかは原文を正しく伝えられるかどうかで決めます。読んだものをきいてみて判断してください。

ピッチを下げて読む方法も、どんな場合でも使えないわけではありません。一寸言いそえるようなカッコではこの方法がいいこともありますが、ここで間違ってはいけないのは、ピッチを下げるとは音の高さを下げることで、音量を下げる（声を小さくする）ことではないということです。突然声が小さくなればきき取りにくくなるだけで内容を理解する助けにはなりません。

又、音声に変換して正しく伝えるためには例えば西宮市（兵庫県）のようなカッコは順番を変えて兵庫県西宮市とすればいいというのは誰しも考えることですが原文の順序を変えることは録音図書製作では認められません。原文通り読んで伝わらない所では補足する、これが音声訳に許される限界です。

音声訳をするには日本語の文章を正しく読むだけでなく、目で見れば分かるけれど音にするとわからなくなる所で適格な補足をする技術が求められます。カッコだけでなく色々な場面でこの技術を正しく使って原本の情報を正確に伝える録音図書をたくさん作っていきたいと願っています。

「ろくおん通信」はホームページで見られます

「ろくおん通信」は「No.１４７号」より、日本ライトハウス盲人情報文化センターのホームページで見ることができるようになりました。下記のアドレスから、「録音製作のご案内」に入ってください。

http://www.iccb.jp/index.html

自宅録音チーム（水曜）

はなみずき

定例の勉強会

自宅録音チームの再編に伴い4月より「ポーコアポーコ」('01年度修了生)、「花みずき」('03年度修了生)、「わかば」('06年度修了生で自宅録音選択者)、計13名で新しく「はなみずき」(自宅録音水曜チーム)としてスタートしました。

新チームでは１冊の本を共同で完成させるという作業を通して、一人では取り組みにくい本を出来るだけ早く利用していただけるようにしたい、ということを目標にしています。

1冊目に『大人の「品格」が身につく本』（青春出版）を取り上げ８人でスタジオ録音を始めました。自宅録音の私達にとってはスタジオ録音は慣れないので緊張する作業ですが、その間は集中して出来るというメリットもあります。

2冊目は自宅録音チームが共同で製作する『全国公共宿舎ガイド』の「北海道編」を担当することになりました。

グループの世話役の金井典子さんや山見順子さんのアドバイスをうけながら問題点やわからないことを一つ一つ解決し聴いてわかる図書の製作に努めていきたいと考えています。　（外園記）

Q&Aコーナー

Q 録音中に息をする音がどうしても入りますが、目立たなくする方法があれば教えてください。

A 息を吸うときの「スー」という音が録音に入ってしまう人は、音声訳経験の浅い方に多いようです。大きく入ると耳障りとなりますので出来るだけ入らないようにしましょう。

原因は、①腹式呼吸がちゃんと出来ていない。②鼻で息している。③マイクと口との距離が近すぎる、などが上げられます

①は初心者の場合は胸式呼吸になるので息継ぎがスムーズにできないことからおこってきます。長い文章などはどうしても息が切れてしまい、あわてて息を吸うので目立つようになります。腹式呼吸を意識してマスターしましょう。

②の鼻で息を吸う人も音は目立ちます。口を開け、口から息を吸うようにすると息を吸うときの音は目立たなくなります。しかし、この時も口を開けるときに音が入ることがありますので注意しましょう。息を吸うときは当然、腹式呼吸を意識的にしましょう。

③のマイクが近すぎる場合は、息を吸う時の音だけでなく、吹かれノイズも入ってしまいます。距離やマイクの角度を少し変えて直接息がかからないよに調整しましょう。特にスタジオで録音される人は注意してください。複数の人がマイクを使用します。録音する時にマイクの距離や角度は、毎回、必ず一定になるよう自分にあった距離と角度に調整することが大切です。

※小さな雑音はプレクストークで聞いてもほとんど目立たないものです。ヘッドホーンで校正すると息継ぎの音や吹かれノイズなどはかなり目立って聞こえてきます。ヘッドホーンで聞こえたからといってすべて直す必要はないでしょう。明らかに目立つような時は直すようにしまょう。

各担当者への連絡事項

音声訳者の皆さん

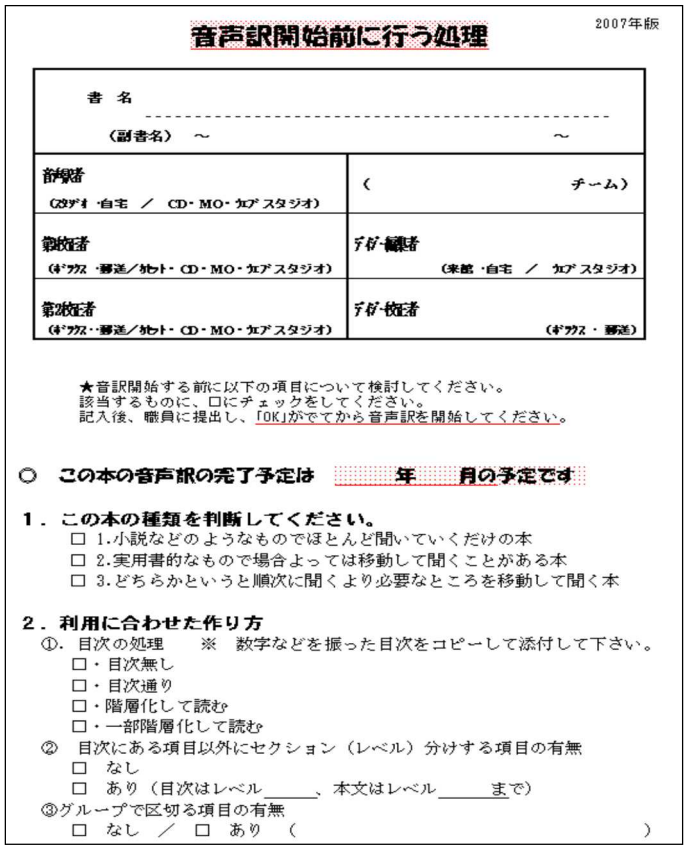
★進行表がかわりました。

進行表が右の様な形式（「音声訳開始前に行う処理」表）にかわりました。変更点は①進行状況を記入する欄をなくしました。今後は進行状況は各自がパソコンに入力してください。パソコン入力の方法は職員が指示しますので聞いてください。

②処理内容もデイジー図書を前提にした内容になっています。音声訳者にもどのようなデイジー図書を制作するのかを考えてもらうようにしています。

③音声訳は係の「ＯＫ」が出てから開始してもらいます。

④「音声訳開始前に行う処理」に記入したら、職員に提出してください。提出された「処理内容」を検討し問題がなければ「音声訳開始の指示」をしますが、問題があるときは音声訳者に再検討の指示をだします。



音声訳開始前に行う処理　2007年版

書　名
（副書名）　～　　～

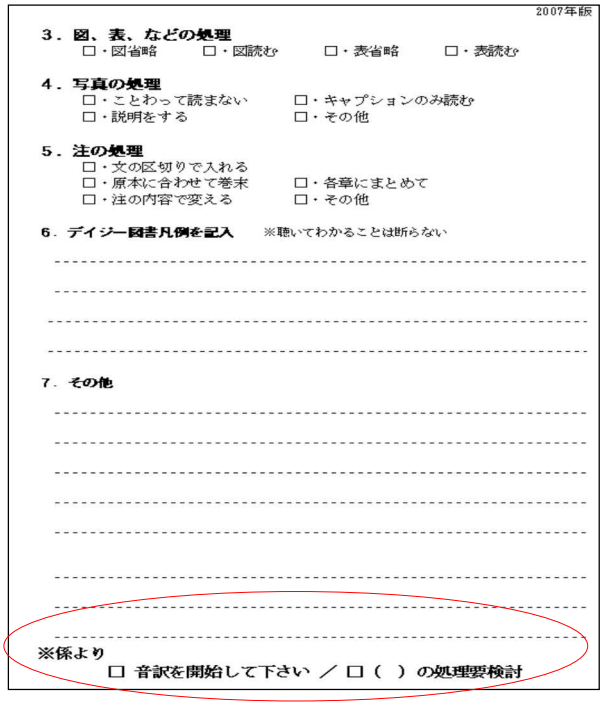
音声訳者 （ｶｾﾀﾞｲ・自宅　／　CD・MO・ｶｾﾌﾟｽﾀｼﾞｵ）	（　　チーム）
第校正者 （ｷﾞﾌﾄｶｽ・郵送／ｶｾﾄ・CD・MO・ｶｾﾌﾟｽﾀｼﾞｵ）	ﾃﾞｲｼﾞ編集者 （来館・自宅　／　ｶｾﾌﾟｽﾀｼﾞｵ）
第2校正者 （ｷﾞﾌﾄｶｽ・郵送／ｶｾﾄ・CD・MO・ｶｾﾌﾟｽﾀｼﾞｵ）	ﾃﾞｲｼﾞ校正者 （ｷﾞﾌﾄｶｽ・郵送）

★音訳開始する前に以下の項目について検討してください。
該当するものに、□にチェックをしてください。
記入後、職員に提出し、「OK」がでてから音声訳を開始してください。

○　この本の音声訳の完了予定は　　年　　月の予定です

1．この本の種類を判断してください。
□ 1.小説などのようなものでほとんど聞いていくだけの本
□ 2.実用書的なもので場合よっては移動して聞くことがある本
□ 3.どちらかというと順次に聞くより必要なところを移動して聞く本

2．利用に合わせた作り方
①．目次の処理　※　数字などを振った目次をコピーして添付して下さい。
□・目次無し
□・目次通り
□・階層化して読む
□・一部階層化して読む
②　目次にある項目以外にセクション（レベル）分けする項目の有無
□　なし
□　あり（目次はレベル＿＿＿、本文はレベル＿＿＿まで）
③グループで区切る項目の有無
□　なし　／　□　あり　（　　）



2007年版

3．図、表、などの処理
□・図省略　□・図読む　□・表省略　□・表読む

4．写真の処理
□・ことわって読まない　□・キャプションのみ読む
□・説明をする　□・その他

5．注の処理
□・文の区切りで入れる
□・原本に合わせて巻末　□・各章にまとめて
□・注の内容で変える　□・その他

6．デイジー図書凡例を記入　※聴いてわかることは断らない

7．その他

※係より
□ 音訳を開始して下さい　／　□（　）の処理要検討

編集者の皆さん

★編集者が音声訳者に最終枠やデイジー図書凡例などの指示表を出すときには職員のチェックを受けて下さい。受け入れ段階で、デイジー図書凡例などの読みかえなどが多発しています。

係からのお知らせ

★音声訳者･編集者は進行状況をパソコンに入力してください。

録音の製作進行状況は音声訳者、編集者それぞれに、その日に修了したページをパソコンに入力していただきます。ユーザーＩＤとパスワードを入力してから、その日修了した最終ページを入力します。